

5月に発表した3カ年中期経営計画では、新規事業への投資と、材工一式受注の推進によるコア事業の強化を柱に掲げた。事業を進める上で重要になるのは顧客との信頼関係。「顧客や協力企業と誠実に付き合っていきたい」と信用第一の事業活動を心掛ける。

就任の抱負を。

◇

「丸紅に在籍中は、主に海外プラントを担当していた。国内の重仮設業界の知識があまりないままに入社したが、入社後、顧客や特約店、協力企業に対する社員の誠実な対応ぶりを見ると、相手との信頼関係を大切にしており、とても真面目な会社だと感じた」

「良い意味で商売において

もとお
元雄氏

うちやま
内山

丸紅建材リース

顧客との信頼関係を第一に



て信用を大切にしている。を継続していきたい。工事私自身もこういった姿勢を現場・工場の労働災害撲滅大切に、信用第一の理念に向けた取り組みも進めて

いきたい」

——足元の事業環境をどう見ると、信用第一の理念に向けた取り組みも進めて

「2020年東京五輪の開催が決まった時は、すぐにさまざまな建設事業が始まるかと考えていたが、現実を見ると五輪関連の動きは鈍い。渋谷駅前の再開発事業などは既に動きだしている。現在、ゼネコンの受注環境は良好だが、重仮設業界にはまだ大きな影響は出てきていない。本年度の下期から徐々に本格化するとみている」

——海外事業は。

「海外での事業展開を行う際には、現地情報やパートナーとの良好な関係が重要になる。そうした知見を豊富に持つ丸紅と協力関係にあることは大きなメリットになる。当面はタイと中国の合併会社の足場を固めることが中心になるが、将来的には大きな成長が見

込めるインドネシアをはじめとした東南アジアでの事業展開を視野に入れている。現地で良いパートナーを見つければ、タイ・中国に次ぐ市場になるのではないだろうか」

——求めている人材は。

「長期にわたって会社内に在籍し、企業文化を継承していく『コアになる人材』と、土木工事のプロなど即戦力になりうる『プロフェッショナルな人材』の二つの人材を求めている。この両方の人材をつまく活用し、シナジー（相乗効果）を生み出したい。外国人の登用についても、女性やシニアの登用、活用と併せて今後検討していくべき課題だと考えている」。

1 新社長

77年京大法学部卒、丸紅入社。執行役員プラント・産業機械部門長、常務執行役員欧州・CIS支配人兼丸紅欧州会社社長、常務執行役員南米支配人兼丸紅ブラジル会社社長兼丸紅ウルグアイインターナショナル会社社長を経て16年4月丸紅建材リース顧問。静岡県出身、62歳。趣味は映画鑑賞。

「新国立競技場など、これから本格化が見込まれる

(6月21日就任)